

# パウル・クレーの造形思考 I

石 野 眞

Makoto ISHINO

A Study of Paul Klee's "Theory of Form Production"<sup>1)</sup>

## はじめに

パウル・クレーは、スイスの誇る偉大な画家であり、美術教育者である。まだ、没後50年にもならないが、その作品は、今世紀美術の中で欠かすことの出来ない画家として、高く評価されている。そして、美術家として、画家としてのクレー以上に、素晴らしい業績を、P.クレーは美術教育の中に残している。中でも、美術教育ノート（“Pädagogischen Nachlass”<sup>2)</sup>）は、パウハウスにおける講義ノートとして、自ら思索し、制作する中で教授した膨大な記録である。P.クレーの美術作品が脚光をあびる中で、このP.クレーの教育ノートはまだ未知のものも多く、これについての研究も、まだこれからという段階である。私は、昭和51年度文部省在外研究員として、1年間、スイスに滞在する中で、スイス国立ベルン美術館の御厚意によりベルン美術館 および P.クレー財団の所蔵する P.クレーの美術作品ならびに教育ノートをゆっくりと見ることが出来た。とくにこの研究の題材である教育ノートについて、マイクロフィルムに収録されたものおよび、たまたま時を同じくして開催された P.クレーの教育ノート及造形原理展において実物に接する幸運を得たので、ここに P.クレーの美術教育ノートにおける造形思考について研究しその第1稿とする。

## 1. 研究の目的と方法

P.クレーの教育ノートならびに彼の造形思考についての研究は、その資料が公開されていないこともあって、まだ初期の段階にあり、論文数および研究者も、P.クレーの美術作品、とくに絵画についての研究にくらべると非常に少ない。ほぼ唯一の公刊資料である J.シュピラー教授の手になる、“Form und Gestaltungslehre”も、全四巻のうち二巻が刊行されているのみで、邦訳はその第一巻がなされているにすぎない。J.シュピラー教授の編集になる“Form und Gestaltungs-

lehre”は、P.クレーの造形思考についての決定版ともいわれる豊富な貴重な資料であり研究であるが、内容は、P.クレーの教育ノートを、J.シュピラー教授が整理、再構成されているため、P.クレーのノートは、そのため、ばらばらに分断されてしまっている。

私は、1977年の夏、スイス国立ベルン美術館における P.クレーの造形思考と教育ノート展<sup>3)</sup>（Paul Klee's “Pädagogischen Nachlass”）を見て、J.グレーゼマー博士の、P.クレーの記述に忠実な展観と研究に接し感銘を受けた。今後のP.クレーの教育ノートに関する研究は、増々多くなるだろうことを思うと、公刊資料となる J.シュピラー教授の研究とともに、J.グレーゼマー博士の研究とその方向、意図、姿勢が広く理解される必要を感じた。P.クレーの教育ノートには、全て整理番号が付されているので、J.シュピラー教授の公刊資料とあわせて、この研究と記録が今後の P.クレー研究の良き資料となれば幸いである。

## 2. パウル・クレーの造形思考

P.クレーの造形思考は、講義録遺稿“Pädagogischen Nachlass”として、総括、保存されているものの中に、あますところなく述べられている。J.シュピラー教授は、P.クレーの造形原理をまるで神秘的のべールをとりさるごとく、全てにわたって、研究、考察の上、私見、私論を最少限にとどめ、P.クレーの思考にもとづく編集に全力をそそいで、刊行しようと努力され続けている。独語版全四巻の構想は次のとおりである。

Paul Klee  
Form-und Gestaltungslehre  
Herausgegeben und bearbeitet von Jürg Spiller  
4Bände  
Band 1: Das bildnerische Denken  
Band 2: Unendliche Naturgeschichte  
Band 3: Statik und Dynamik  
Band 4: Farblehre

上記四巻のうち、二巻が英訳刊行されている。

Paul Klee  
Notebooks

Volume 1: The thinking eye

Volume 2: The nature of nature

独語原本“Das bildnerische Denken”および、英訳版、“The thinking eye”は、邦訳されて、「造形思考」として刊行されている。したがって、P.クレーの造形思考を公刊されている、J.シュピラー教授の研究にもつき、新資料として、スイス国立ベルン美術館のJ.グレーゼマー博士の研究をあわせ考察することにより、より深い研究が、ベルン美術館の原資料によらないで、展開出来るはずである。これら資料についての対照を示すと次のとおりである。図Iは、P.クレーの遺稿を1977年の展覧会のパンフレットとして使用したものである。

Paul Klee's "Pädagogischer Nachlass", 4/80, IV/80

Paul Klee Das bildnerische Denken S. 58

すなわち、原資料、P.クレーの遺稿の整理番号4/80は、J.グレーゼマー博士による展覧会に公開され、J.シュピラー教授の“Das bildnerische Denken”において、58頁に収録されている。これは又、邦訳されて、「造形思考」の上巻102頁である。この頁は、P.クレーの組成論の一部で、邦訳によれば「多数と少数の機能を強調した組成論の複写：50昼夜（多数）、そのなかに3日の暑い日と4日の涼しい日（少数）」となる。

J.グレーゼマー博士の資料配列とJ.シュピラー教授の公刊資料による配列には多くのちがいがみられ、考察、研究のちがいが感じられる。1977年ベルン美術館におけるJ.グレーゼマー博士の公開資料は、展覧会が終了した今、貴重なものと思われる。今後のP.クレー研究の資料として、又私のこれにもとづく、「P.クレーの造形思考」研究の資料として後載する。

P.クレーの造形思考は、美術教育、造形教育についての草稿であるとともに、P.クレーの絵画制作の実際の中にも生かされていった。したがって、講義録遺稿“Pädagogischen Nachlass”は、造形教授 Form und Gestaltungslehre であり、造形思考“Das bildnerische Denken”として、同一であった。

「バウハウス時代の講義録も『フォルムおよび造形論』(Form und Gestaltungslehre) 全四巻のうちまだ二巻しか刊行されていない。最近邦訳された『造形思考』(新潮社)はその第一巻に当る部分である。制作と理論とが競合し、「方法」の「純粋培養」によって貫かれているクレー芸術の意味は、それらの文書資料が完全に公刊されたとき、さらに一そう明確になるだろうし、クレー研究も飛躍的な発展をとげるだろう。そして、そのことは、われわれがヨーロッパ美術の展開を把握して

いく上で、不可欠の、大きな柱となる仕事であると思われる。」と、クレー研究者、土肥美夫教授は、その訳書「クレーの絵画」の後記の中で述べている。P.クレー関係文書、資料の完全公刊はまだまだ後のこととなるとしても、P.クレーの造形思考の秘密とその深い、広い造形意志はその生成と組成の過程を教育と制作、研究の側面を一つにつないで、つきない興味を研究者に鑑賞者にあたえてくれる。又、わが国の小・中学校の図画工作、美術の教科書の中に最も沢山登場する作家として、その作品は限りない魅力を秘めている。P.クレーの創作活動の根底を支えているもの、P.クレーの創作原理それが、P.クレーの造形思考としての教育ノートである。教育ノートは、P.クレーの造形やフォルムについての考え方をあますところなく記述している。文章と挿絵は有機的なつながりとして統一され、思考方法と造形方法との深い一致が見られる。まさに造形言語としての表現の世界の文法が、精密に大胆に展開されている。

1977年、ベルン美術館における、P.クレーの遺稿展は、質、量ともに素晴らしいものであった。幸運にも、これを、鑑賞、研究する機会を得たことは、不思議なめぐりあわせであり、何よりの喜びであった。

#### BILDNERISCHE GESTALTUNGSLEHRE

##### A. FRÜHE VORLESUNGSMANUSKRIPTE BIS 1925

1. Beiträge zur Bildnerischen Formlehre 1921/22
  2. Vorlesungsmanuskripte und Varia 1923-25
- ##### B. BILDNERISCHE GESTALTUNGSLEHRE 1926-33

1. Urwege zur Form
2. Elementarformen
3. Form in Format
4. Formvermittlung
5. Zusammengesetzte Formen
6. Abweichung auf Grund der Norm
7. Abwandernde Zentren
8. Bildnerische Mechanik und Varia
9. Progressionen
10. Stereometrische Gestaltung

このうち、Aの「初期の講義草稿—1925年まで」を、今回掲載し、以下Bについては、本研究IIにゆずる。

#### BILDNERISCHE GESTALTUNGSLEHRE

##### A. FRÜHE VORLESUNGSMANUSKRIPTE BIS 1925

1. Beiträge zur Bildnerischen Formlehre 1921/22
  2. Vorlesungsmanuskripte und Varia 1923-25
- Linie (Ende 1923) S. 20  
1/9, 9/5, 9/6, 9/7, 9/8, 9/9, 9/12, 9/15, 41, 42, 49 (9/21), 46, 47, 56, 58 (9/25), 60 (9/26).  
Helldunkel (Anfang 1924) S. 12  
9/32 (72, 73), 77, 78, 80 (9/34), 9/40, 82, 83, 88, 9/37, 93 (9/39), 9/41.  
Farbe (Anfang 1924) S. 13  
\_\_\_, \_\_\_, 9/56, 114, 115, 110, 111, \_\_\_, 106, 107,

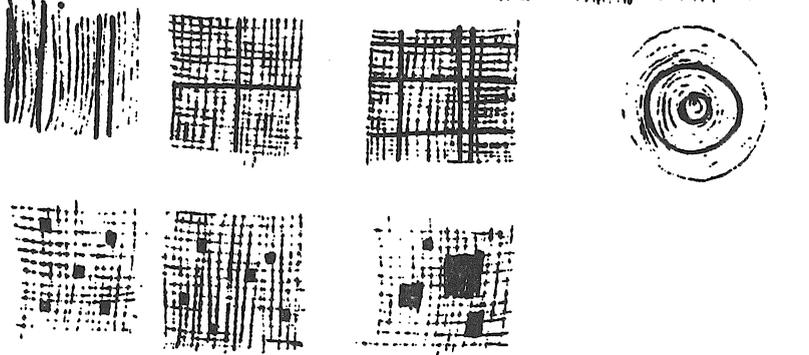
118, 119, 123,  
 GLIEDERUNGSLEHRE 4/4-14 BERÜHRUNGEN  
 3, 4, 5, 6, 17, 7, 18.  
 GESTALTUNGSLEHRE  
 GLIEDERUNGSLEHRE 4/21-80 RHYTHMIK  
 21, 22, 23a, 23b, \_\_\_\_.  
 4/39-48 Material aus frühen Vorlesungen

39, 40, 42, 43, 44, 44c, 45, 46, 47, 48.  
 Struktur. Die feingliedrige Zusammensetzung  
 einer Materie.  
 52, 54, 55, 56 (56/3).  
 Natürlicher Beitrag  
 64, 67.  
 Synthese von minorer und maiorer Gliederung

☒ I.

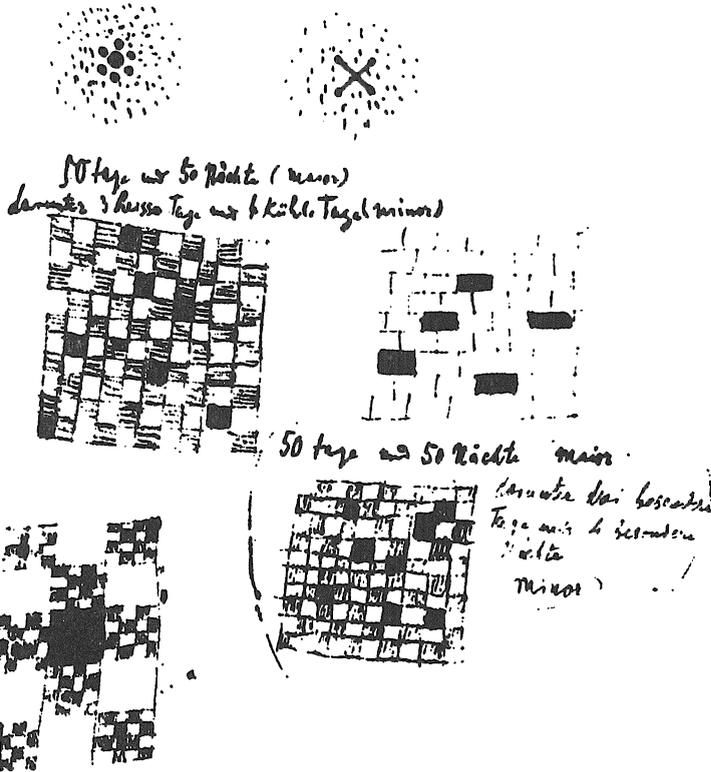
KUNSTMUSEUM BERN  
 HODLERSTRASSE 12

*Das durch- in d'ri-ochal  
 Symbol.*



6. JUNI-28. AUGUST 1977

PAUL KLEES "PÄDAGOGISCHER NACHLASS", ZUR DISKUSSION GESTELLT



ZEICHNUNGEN, SKIZZEN UND NOTIZEN ZUM UNTERRICHT AUS DEN  
 JAHREN 1921-1933

4/76, 4/80. ◀前頁の図。

ORGANISATIONSLEHRE DES RHYTHMISCH-  
EN

4/89-107a. Homophonie und Polyphonie

89, 90, 91, 92, 95, \_\_\_\_, \_\_\_\_, 97a, 100a, 101a, 106,  
107a.

4/110a-112. Lineare Polyphonie

110a, 111, 112.

20/2, 20/6, 18a, 20/19, 51/2, 51/5.

SPEZIELLE ORDNUNG DER BILDNERISCH-  
EN MITTEL

Major-minor

1, 25 (60/31), 26 (60/32), 60/34a, 29 (60/36), 30  
(60/38), 33 (60/41), 19/3.

Bewegungsrichtung S. 6

60/81, 72 (60/82), 71 (60/80), 91 (60/100), 89 (60/  
102), 73 (60/83).

BILDNERISCHE MECHANIK S. 27

45/13, 45/15, 45/20 (S. 2), 45/21, 45/24 (S. 2), 45/  
25, 45/27, 45/34 (S. 2), 45/35, 45/32, 45/39, 180, 45/  
51 (S. 2), 45/53 (S. 2), 45/65, 45/55 (S. 2), 45/56,  
45/46, 45/42 (S. 2), 181, 182, 183, 184.

## おわりに

さきに、筆者は、「Paul Klee の “Pädagogisches Skizzenbuch” について」と題して、島根大学教育学部紀要第6巻（人文・社会科学編、昭和47年12月）に、P.クレーの造形思考について報告し、その研究をはじめた。P.クレーの “Pädagogisches Skizzenbuch” は、P.クレーが、バウハウスの教授時代、バウハウス・シリーズの一冊として、まとめ、刊行されたものである。

今回の P.クレーの造形思考についての研究は、“Pädagogisches Skizzenbuch” の草稿をも含めた Pädagogischen Nachlass, P.クレーの講義録遺稿に見られる造形思考全体について研究にとりくむ第 I 稿である。なお、今後も P.クレーの “Pädagogisches Skizzenbuch” についての研究を続けるつもりである。摺筆時にあたり本研究に暖かい御指導をいただき、研究資料の閲覧など、御厚意のうちに励まし下さったスイス国立ベルン美術館の J.グレーゼマー博士に感謝するとともに、スイス滞在の1年間、研究生活を御指導、御支援いただいた、スイス国立ペスタロッチ教育研究所の H.ヴィーマン所長、チューリヒ美術工芸大学教員養成大学院課程教授、R.ブリガッティ先生に感謝、御礼申し上げます。又、留学研究に懇切な御指示をいただいた京都教育大学・中村二柄教授、東京芸術大学・三好二郎先生、そして、島根大学教育学部美術研究室の諸先生に厚く御礼申し上げます。

## 註

- 1) 研究題目の英訳について、J.シュピラー教授の *Das bildnerische Denken* についての英訳は、*The thinking eye* であり、邦訳が「造形思考」である。P.クレーの造形思考は、創作活動における造形原理であると考え、意訳した。
- 2) P.クレーがバウハウスの教授時代に講義した約 2,500枚におよぶ教授用ノートおよび草稿。その全てが、スイス国立ベルン美術館および同館内の P.クレー財団に保存されており、マイクロフィルムおよびゼロックスコピーにより記録されている。
- 3) この展覧会は、P.クレーの遺稿の公開であるとともに、J.グレーゼマー博士の研究の成果として記念されるべき催しであった。
- 4) 「クレーの絵画」、マックス・フグラー著、土肥美夫訳、紀伊国屋書店刊、p.275。  
参考文献については、本文中以外のものについて省略する。